

# 小規模校の特性を活かした体力づくり

～自ら考え、ともに学び合い、つながり、広げる～

## 大阪府泉南郡岬町立深日小学校

全校児童数	83名(男子41名 女子42名)
全クラス数	7クラス(内特別支援学級1クラス)
教職員数	14名(内体育専科0名)
地域のスポーツ指導者の活用(年間延べ人数)	4名

### Plan…取組時の課題と目的

#### 1 取組時の課題

平成 27 年度の新体力テストの総合評価では、男女とも A 判定はおらず、男子は D・E 判定が全体の 66.6%、女子は 57.1% と半数以上が体力に課題があることが明らかになった。この結果は全国平均を大きく下回ることとなった。

平成 28 年度より、教育委員会や近隣の大学の指導助言をもとに体育や健康教育や食育を軸とした子供の体力づくりと学校活性化を目的としたプランを策定した。

#### 2 取組の目的

- ① 小規模校の特性を活かした子供が主体的に取り組むための学び合いの場とカリキュラムの設定。
- ② 異学年・大学生・地域などとの交流を通し、子供が中心となって体力づくりを楽しみ、広げていくようにする。
- ③ 大学と地域の連携を強化し、体力向上や健康教育や食育も含めた総合的な「体力づくり」に向けた授業計画・交換授業・カリキュラム・マネジメントの推進。

### Do…取組の内容

#### 1 全校での交換授業・たてわり活動の推進

小規模校のため専科の配置はなく、教員の得意分野を活かすことで授業力の向上につなげるために全学年で部分的な教科担任制を実施した。低・中・高学年を 3 人で分担し、複数指導体制によるきめ細かい指導と安全性の配慮ができた。1～6 年生を 12 のたてわり班に編成し、子供たち同士で教え合いや学び合いの場も設定することで、多くの子供が互いの成長を認め合い、高め合う姿が見られるようになった。また、体の動きを知るために座学での体育も取り入れている。

#### 2 交流を通じた体づくりへの相乗効果

児童が自分たちで体力づくりの目標設定や内容を企画、立案、実施し、休み時間の「全校遊び」などを教師、学生ボランティアとともに考えて、達成感を共有している。隣接する保育所の子供と一緒に全校児童との遊びや低学年と合同体育をするなどの交流を通して、就学前からの体づくりも意識した取組を行っている。運動会では、地域の方々や大学生の参加種目を増やし、子供とともに体を動かす楽しさを共有したり、大学生アスリートによる競技の実演を見て、スポーツのすばらしさを感じられるようにしたりしている。

体の動きを考えながら動きを分析→



### 3 各自が到達目標を設定した生活習慣の改善

生活習慣の改善に向け、全校で 1 週間の時間利用調査を複数回実施した。その結果、児童が自身の課題を意識し、個々の課題に対し、自分たちで改善目標や計画を立て、次の調査でどのように改善していくのかを考えるようになった。複数回実施することで、家庭も含めて生活習慣の改善に積極的に取り組むようになった。



学年	性別	調査日	調査時間	調査場所	調査内容	調査結果	調査者
1	男	10/10	10:00-11:00	1年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
1	女	10/10	11:00-12:00	1年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
2	男	10/10	10:00-11:00	2年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
2	女	10/10	11:00-12:00	2年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
3	男	10/10	10:00-11:00	3年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
3	女	10/10	11:00-12:00	3年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
4	男	10/10	10:00-11:00	4年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
4	女	10/10	11:00-12:00	4年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
5	男	10/10	10:00-11:00	5年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
5	女	10/10	11:00-12:00	5年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
6	男	10/10	10:00-11:00	6年1組	生活習慣アンケート	10/10	10/10
6	女	10/10	11:00-12:00	6年2組	生活習慣アンケート	10/10	10/10

近隣小との小小連携授業

生活習慣アンケート

### ●工夫したこと

保健、体育、食育領域で、全体の年間指導計画を担当者で作成し、教科担任制のカリキュラムづくりに生かしている。これによって、学校、大学、教育委員会、地域が連携して共有しながら 6 年間の見通しをもって段階的な目標の設定ができるようになった。

### Check…取組成果の評価

- ① 児童が主体的に体力づくりに参加し、普段から楽しみながら体を動かすことで、体力の向上と教員の意識改革を促すことができた。
- ② 生活習慣の改善を家庭や地域と連携してできたことで啓発活動がより効果的になった。

### Action…今後の課題

- ① 子供が自身の体力や生活習慣、食事の栄養バランスなどを通して自らを振り返り、改善しようとする力をつける。
- ② 児童が異学年だけでなく、世代を超えて交流を通して学び合える地域の体力づくりの場としていきたい。

### ◎体力の向上の取組がもたらす波及効果

これまでの取り組みを継続し、発信してきたことで、学校にかかわってくれる人たちが増え、いろいろな場面で子供たちとふれ合う機会が増えた。学校の活性化が地域の活性化にも波及しているといえる。



だれでも参加し楽しめる運動会



保小連携の体力づくり